

3. 市民アンケートの結果

・調査対象

滝川市内の満20歳以上の市民
※住民基本台帳より無作為に抽出（単純無作為抽出）

・配布数

滝川市街地： 2,000票
東滝川地区： 250票
江部乙地区： 250票

合 計： 2,500票

・調査方法

郵便による配布、回収

・調査期間

H21年6月5日（金）～6月15日（月）
※7月17日回収分まで有効とした

・回収結果

	滝川市街地	東滝川地区	江部乙地区	その他	無回答	計
配布封	2,000	250	250			2,500
回収数	685	95	88	20	27	915
回収率	34.3%	38.0%	35.2%			36.6%

・調査内容

問1 現在の滝川市の都市づくりに関する満足度

- ・都市づくりについて
- ・都市の環境について
- ・道路・交通について
- ・住みやすさ、住み続ける意向

問2 これからの暮らしや都市のあり方について

- ・コンパクトなまちづくりについて
- ・買い物に関する意向について
- ・住まい方の意向について
- ・今後の都市のあり方について

問3 住民参加について

問4 回答者の属性

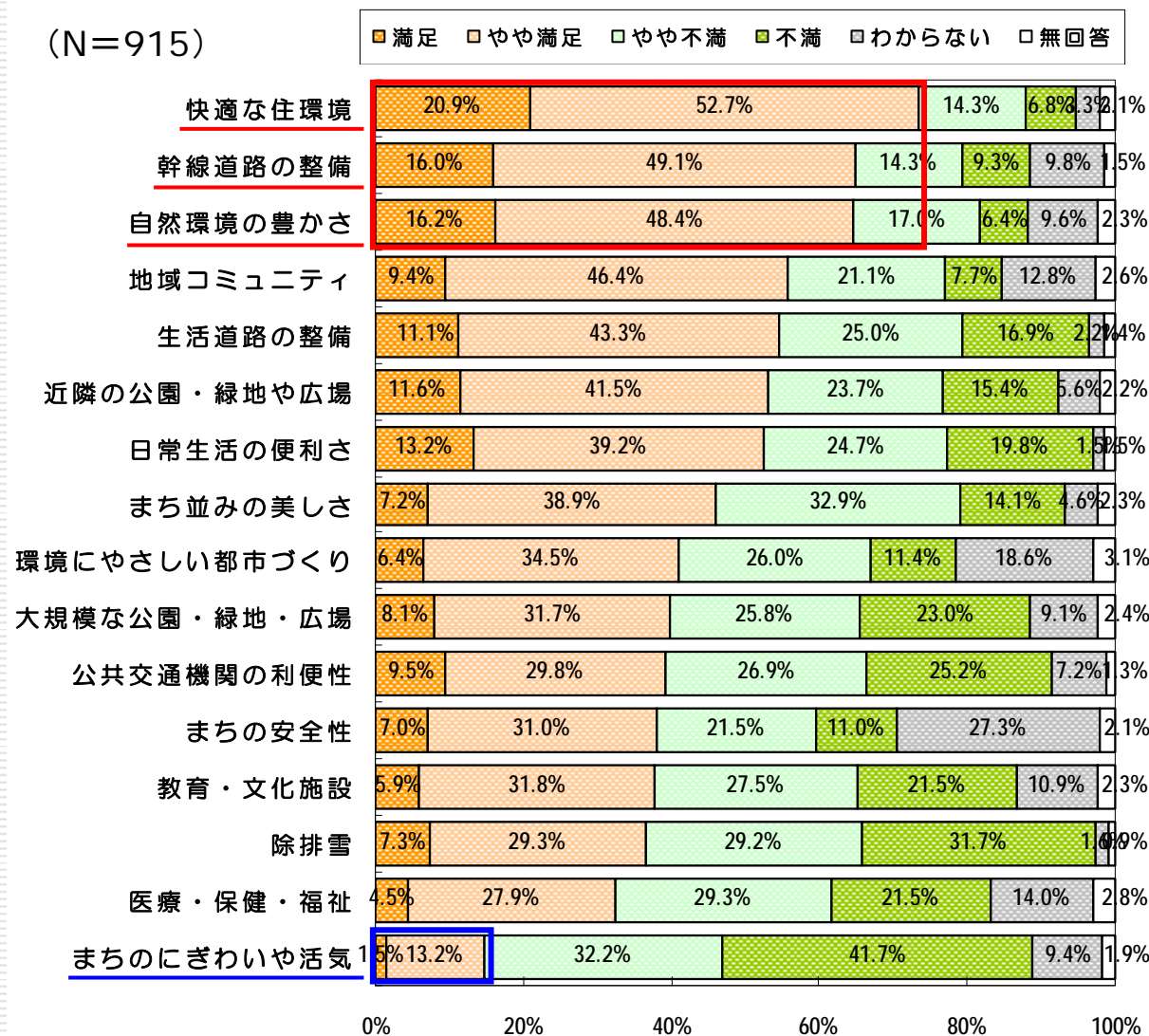
問5 自由意見

- ・統計的に必要な票数（300票程度）を大きく上回る
- ・回収率が約4割と比較的高い

問1 現在の滝川市の都市づくりについて

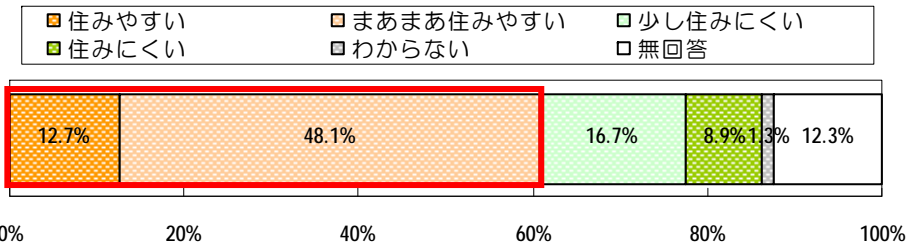
(1) 満足度について

(N=915)

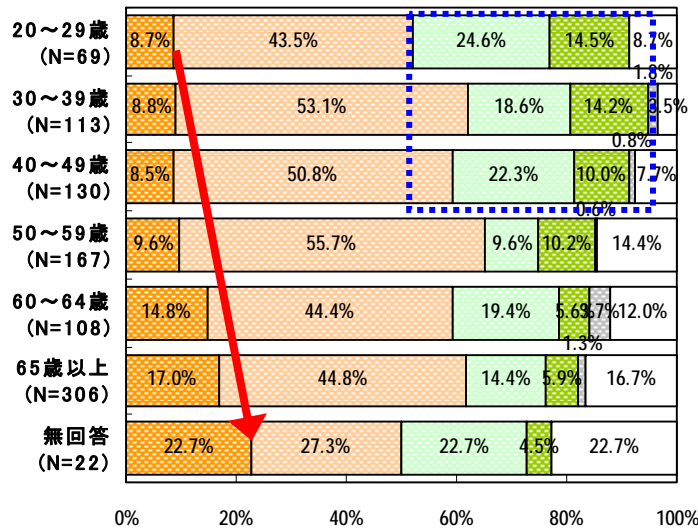


- ・「住環境の快適性」、「自然環境の豊かさ」など、**地方都市における特徴的な環境について満足度が高い**
- ・「幹線道路の整備」の満足度が高く、**4車線の幹線道路を中心とした道路整備について評価が高い**
- ・「**まちのにぎわいや活気**」に対する**満足度が最も低く**、中心市街地の活力衰退の現状が影響していると考えられる
- ・前回の調査と比較すると、「**近隣の公園・緑地や広場**」、「**幹線道路の整備**」、「**除排雪**」の満足度が向上、「**医療・保健・福祉**」、「**まちのにぎわいや活気**」、「**教育・文化施設**」、「**自然環境の豊かさ**」、「**公共交通機関の利便性**」、「**生活道路の整備**」の満足度は低下

(2) 現在滝川市の住みやすさについて

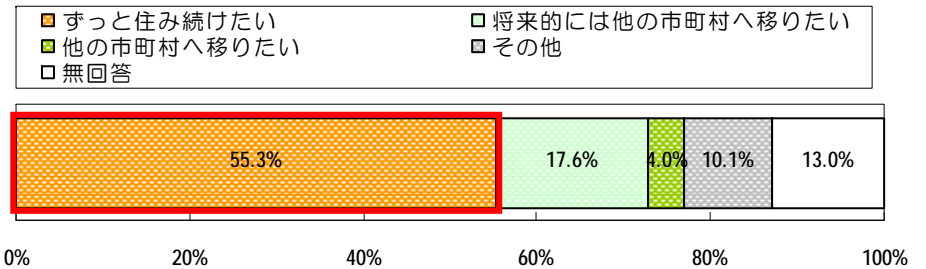


◎年齢別

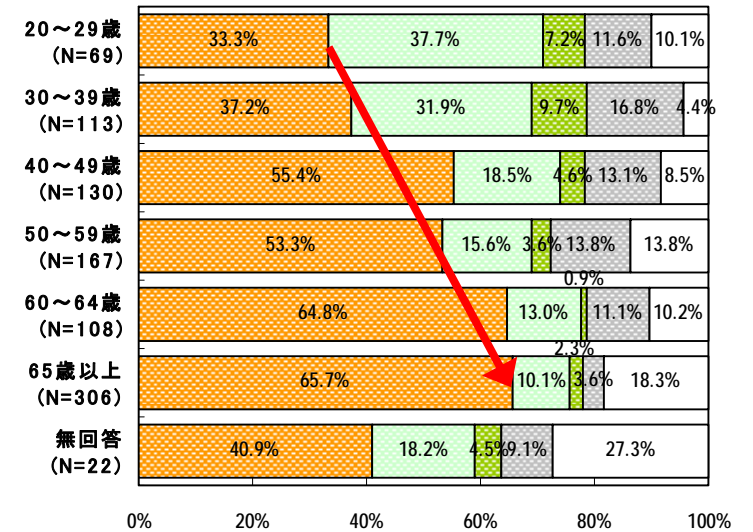


- ・ **住みやすい**（「住みやすい」、「まあまあ住みやすい」の合計）という回答が**約6割**
- ・ **年齢が高いほど住みやすいという回答が多く**、**若い世代では住みにくい**（「住みにくい」、「少し住みにくい」の合計）が**3~4割**

(3) 今後住み続ける意向について



◎年齢別

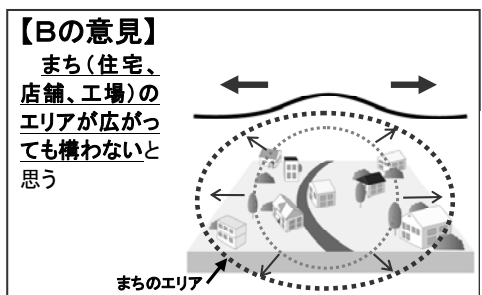
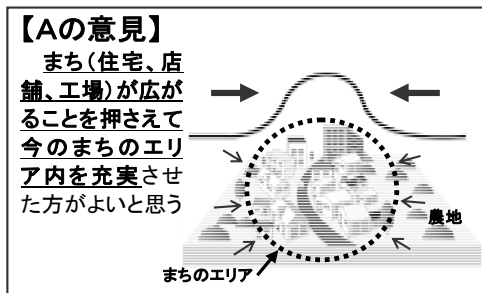


- ・ **ずっと住み続けたい**という回答が**約6割**
- ・ **年齢が高くなるほど住み続けたい意向が多く**、**若い世代では、他の市町村へ移りたい意向が高い傾向**

➡ **現在の滝川市が住みやすいと感じる市民の割合と今後住み続ける意向がある市民の割合がほぼ同じ割合**

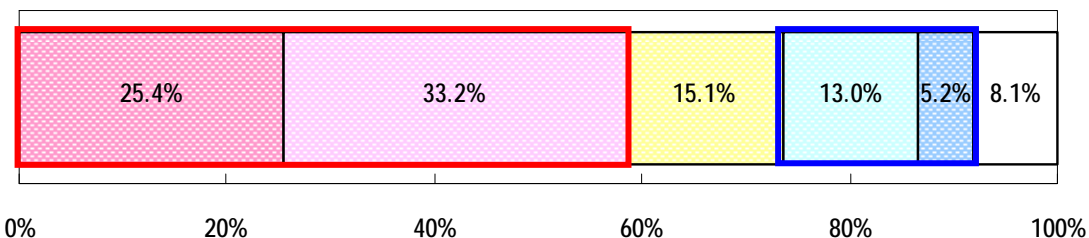
問2 これからの暮らしや都市のあり方について

(1)コンパクトな都市づくりについて

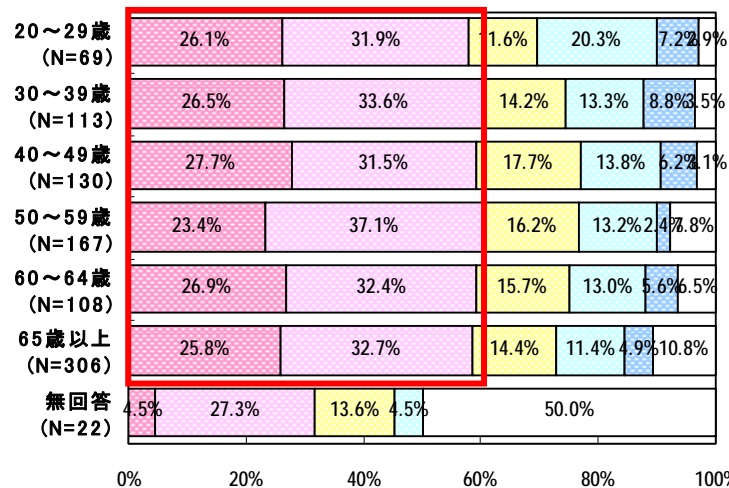


【Aの意見】に近い
 どちらかといえば【Aの意見】に近い
 どちらともいえない
 【Bの意見】に近い
 どちらかといえば【Bの意見】に近い
 無回答

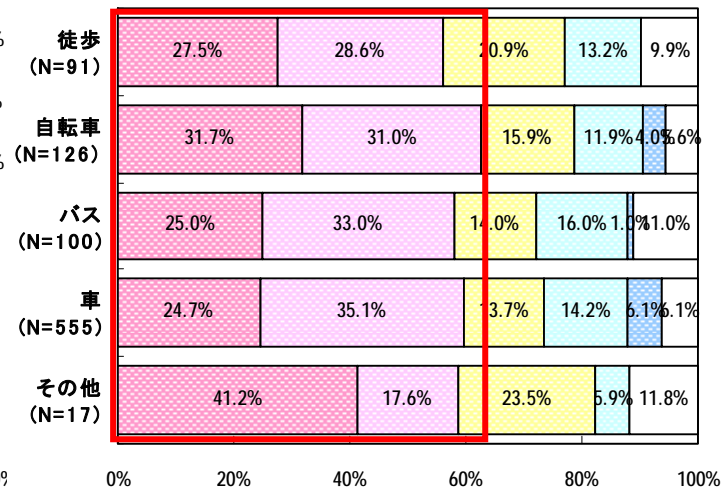
(N=915)



◎年齢別

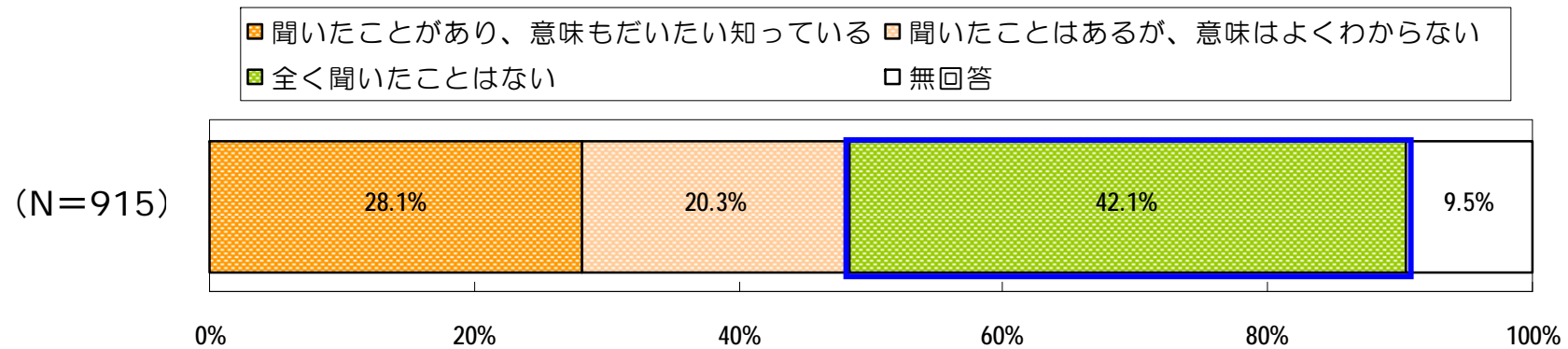


◎移動手段別

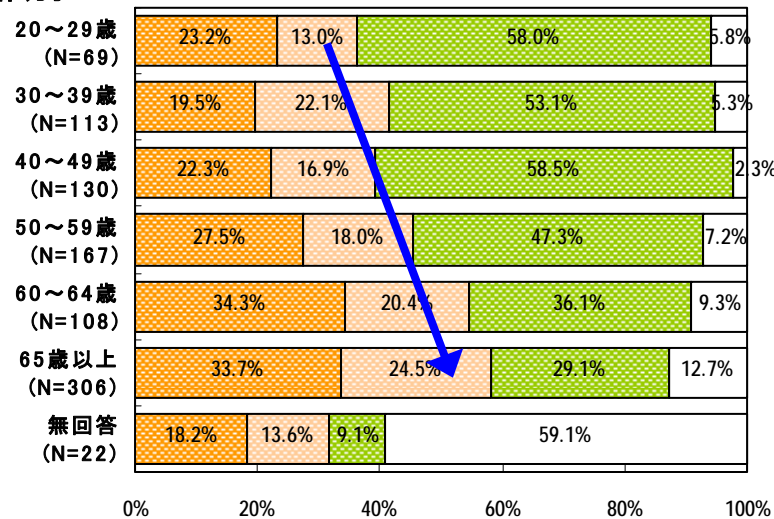


- ・都市のコンパクト化に賛成する意見が約6割と多く、都市の拡大について約2割が賛成
- ・年齢や移動手段による傾向は特にみられない

(2)「コンパクトな都市づくり」の言葉の意味の認識について



◎年齢別

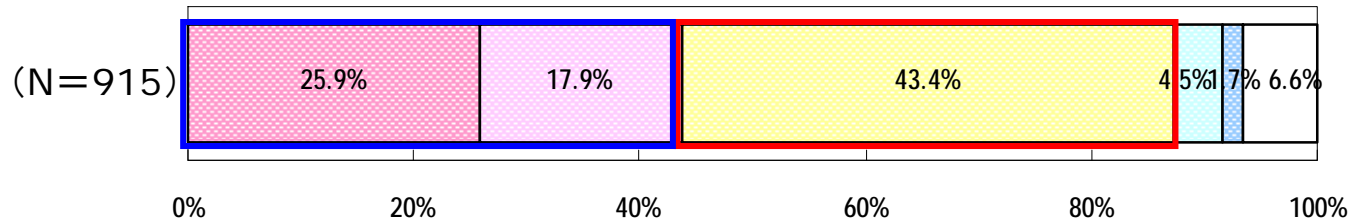


- 言葉を聞いたことがあり、意味を知っているという回答者が約3割
- 全く聞いたことはないという回答者が約4割
- 年齢が高くなるほど認識度が高くなる傾向



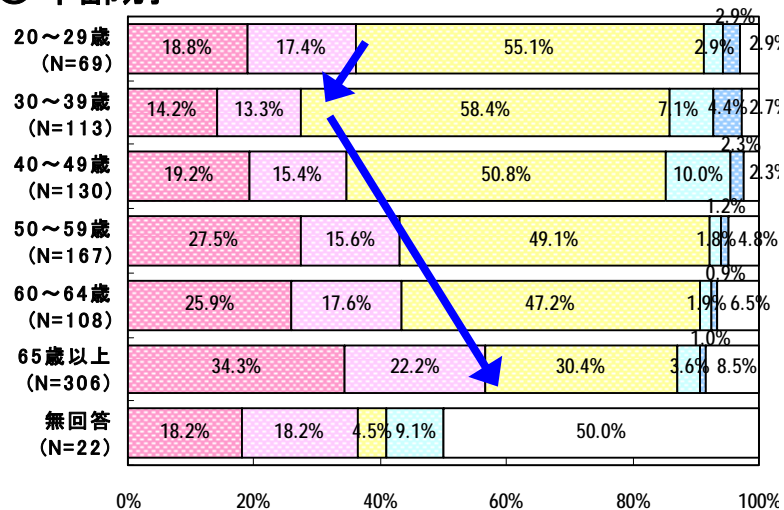
「コンパクトな都市づくり」の言葉や意味の認知度が十分ではない

(3) 今後の日常生活について

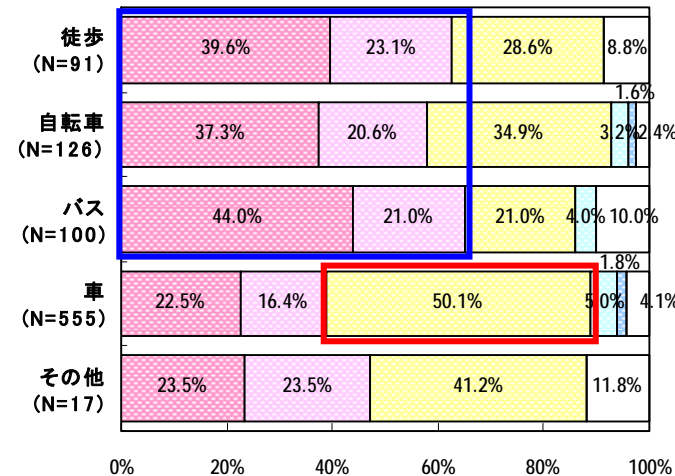


- 歩行や公共交通を利用しやすい生活が最も重要
- 歩行や公共交通を利用しやすい生活がどちらかといえば重要
- 歩行や公共交通を利用しやすい生活、自家用車を利用しやすい生活の両方が重要
- 自家用車を利用しやすい生活がどちらかといえば重要
- 自家用車を利用しやすい生活が最も重要
- 無回答

◎年齢別



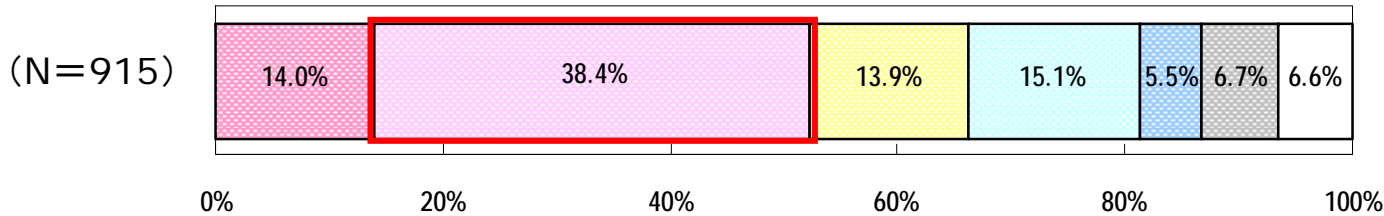
◎移動手段別



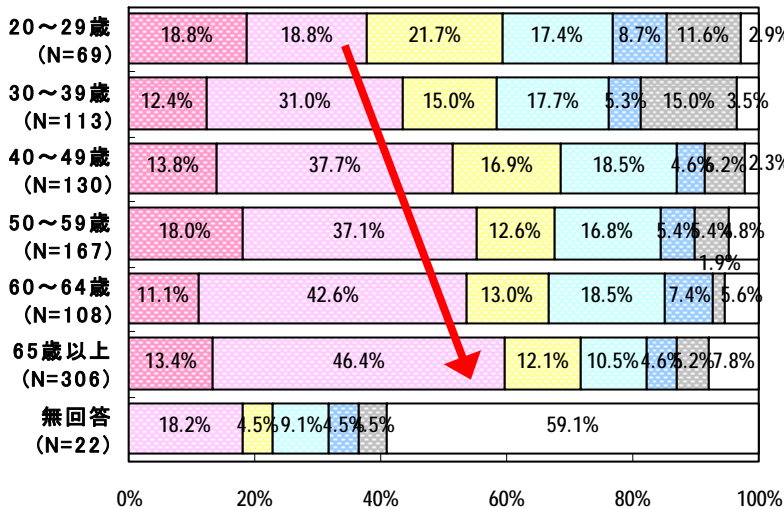
- ・「歩行や公共交通と自家用車の**両方が利用しやすい生活**を重視する」という回答が**約4割**
- ・「**歩行や公共交通を利用しやすい生活**を重視する」という回答が**約4割**
- ・**年齢が高くなるほど、歩行や公共交通を利用しやすい生活を重視する傾向**
- ・**車利用者**でも**両方が利用しやすい生活を重視**する回答が約半数と高くなっている

➡ **歩いて買い物できる環境の整備、公共交通の充実が重要となる一方で、車を利用する生活との両立が必要**

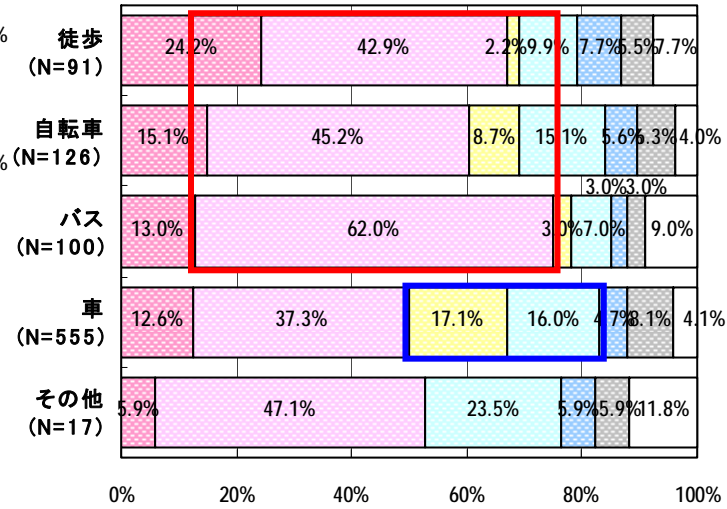
(4) 今後の住まい方について



◎年齢別



◎移動手段別



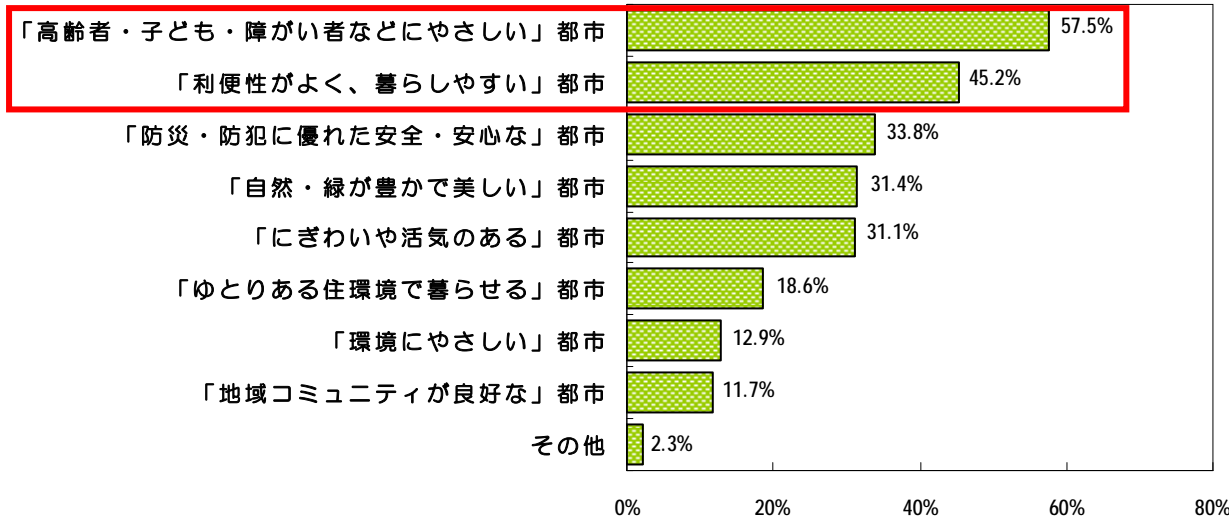
- 滝川駅・ベルロード周辺、江部乙駅周辺、東滝川駅周辺の利便性の良いところに住みたい
- バス停に近い場所で比較的利便性の良いところに住みたい
- 幹線道路（国道など）に近い場所で自動車の利便性の良いところに住みたい
- 駅周辺、バス通り周辺、幹線道路周辺以外のゆとりある住宅地に住みたい
- わからない
- その他
- 無回答

- ・ 「バス停に近い場所で比較的利便性の良いところに住みたい」 意向が **約4割と最も多い**
- ・ 年齢が高くなるほど、また、徒歩・自転車・公共交通利用者 で「バス停に近い場所で比較的利便性の良いところに住みたい」という回答が **特に多い**

公共交通を軸として生活利便性が確保できる都市づくりが重要

(5) 今後の滝川市の都市づくりのあり方について

(N=915) ◎年齢別



	今後の滝川市の都市づくりのあり方	
20～29歳 (N=69)	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	59.4%
	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	47.8%
	「にぎわいや活気のある」都市	33.3%
30～39歳 (N=113)	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	57.5%
	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	43.4%
	「自然・緑が豊かで美しい」都市	42.5%
40～49歳 (N=130)	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	63.1%
	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	53.1%
	「にぎわいや活気のある」都市	33.8%
50～59歳 (N=167)	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	53.9%
	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	51.5%
	「自然・緑が豊かで美しい」都市	40.1%
60～64歳 (N=108)	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	55.6%
	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	41.7%
	「防災・防犯性に優れた安全・安心な」都市	40.7%
65歳以上 (N=306)	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	62.7%
	「利便性がよく、暮らしやすい」都市	40.2%
	「防災・防犯性に優れた安全・安心な」都市	36.9%
無回答 (N=22)	「自然・緑が豊かで美しい」都市	22.7%
	「高齢者・子ども・障がい者などにやさしい」都市	18.2%
	「防災・防犯性に優れた安全・安心な」都市	13.6%
	「にぎわいや活気のある」都市	13.6%

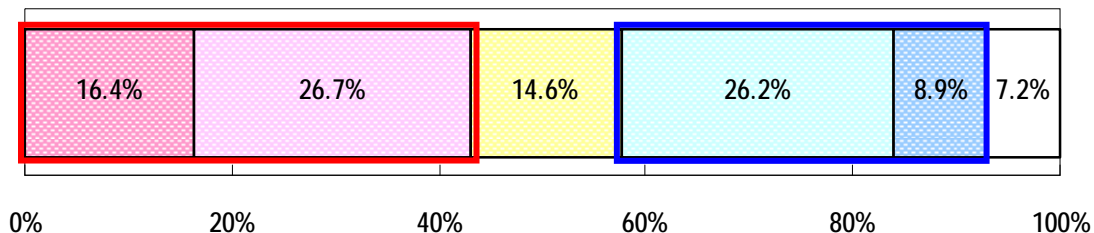
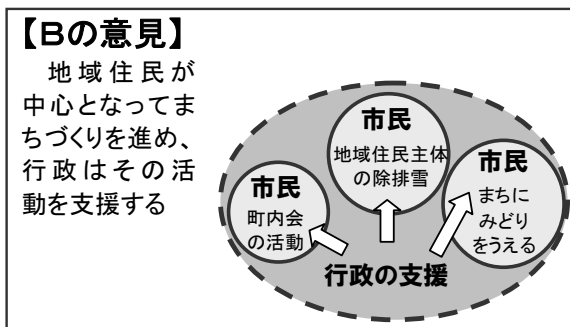
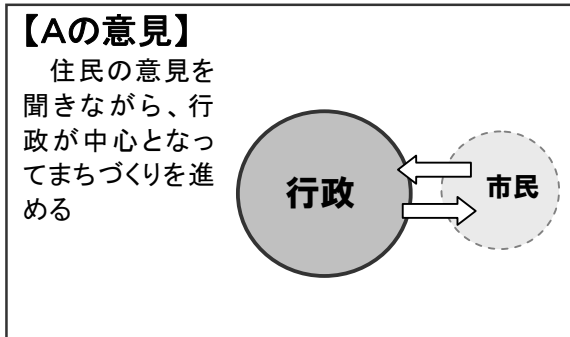
- 「**高齢者・子ども・障がい者などにやさしい**」都市が約6割と**最も望まれている**
- その他、「**利便性がよく、暮らしやすい**」都市が約4割と多くの市民に**望まれている**
- **年齢が高くなるほど都市の安全・安心**を望み、**年齢が低いほど都市のにぎわい**を望む傾向

➡ **少子高齢社会に対応した利便性の高い都市づくりが重要**

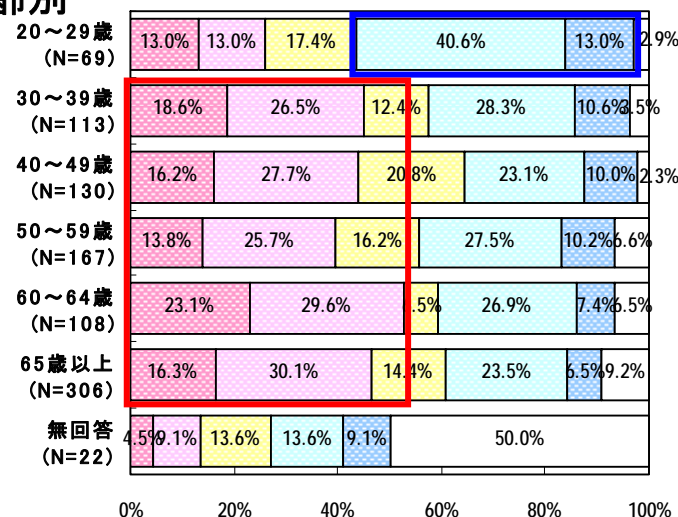
問3 今後の都市づくり活動について

(1) これからの滝川市の都市づくり活動のあり方

(N=915)



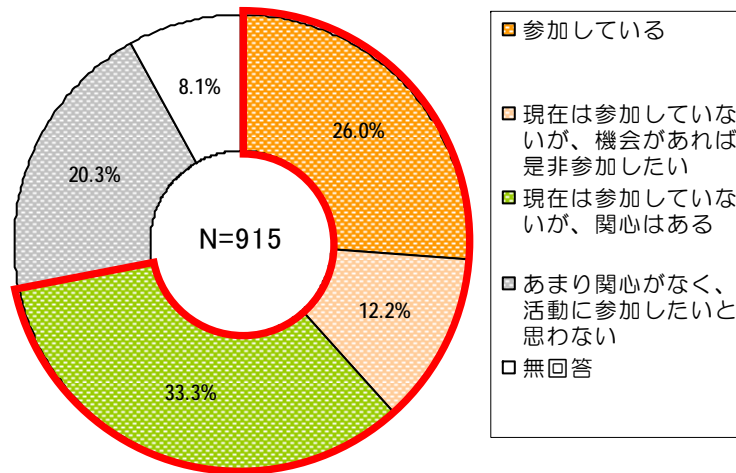
◎年齢別



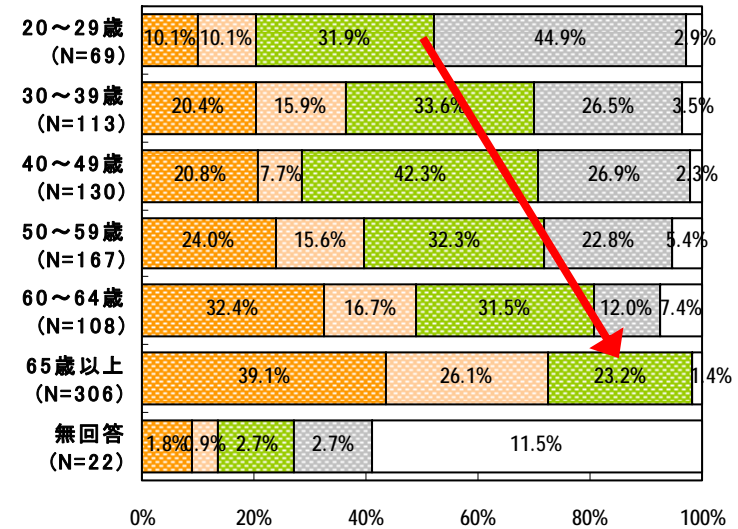
- 【Aの意見】に近い
- どちらかといえば【Aの意見】に近い
- どちらともいえない
- どちらかといえば【Bの意見】に近い
- 【Bの意見】に近い
- 無回答

- **行政主導のまちづくり活動に賛成**する回答と**地域住民主体のまちづくり活動に賛成**する回答がそれぞれ**約4割とほぼ同程度**
- **20～29歳**では、**地域住民主体のまちづくりに賛成**する回答は約半数以上と**他の年齢に比べて高くなっている**

(2) 都市づくり活動への参加意向



◎年齢別

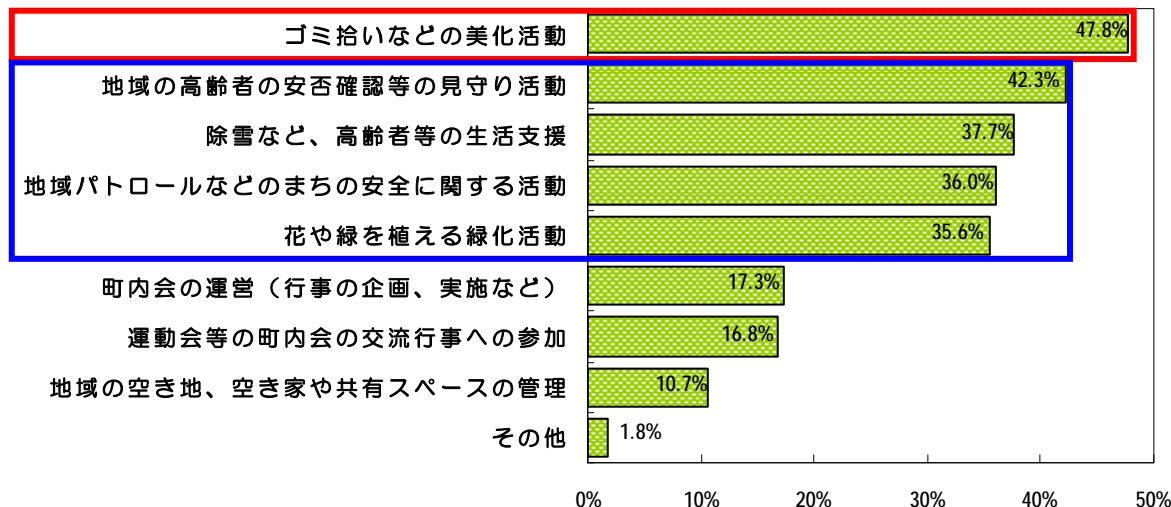


- ・ **参加意向のある**（「参加している」、「参加していないが機会があれば参加したい」の合計）回答者が**約4割**
- ・ **参加していないが、関心はある**が**約3割**
- ・ **年齢が高くなるほど参加意向が高**なっている
- ・ **20～29歳**では、**地域住民主体のまちづくりに賛成**する回答が多かったが、**まちづくり活動への参加意向は低い**

➡ **都市づくり活動への関心が高い**

(3) 今後積極的に取り組むべき地域活動

(N=915)



- ・ **ゴミ拾いなどの美化活動が約5割と最も高い**
- ・ 「**地域の高齢者の見守り活動**」、「**除雪など、高齢者等への生活支援**」、「**地域パトロールなどのまちの安全に関する活動**」、「**花や緑を植える緑化活動**」の順にそれぞれ約4割
- ・ **年齢が高くなるほど高齢者の見守り活動を望む意向が多くなっている**

◎年齢別

年齢	地域で積極的に取り組むべき活動	割合
20～29歳 (N=69)	ゴミ拾い等の美化活動	23.2%
	地域パトロール等のまちの安全に関する活動	21.7%
	除雪など、高齢者等への生活支援	20.3%
30～39歳 (N=113)	ゴミ拾い等の美化活動	41.1%
	地域パトロール等のまちの安全に関する活動	34.8%
	除雪など、高齢者等への生活支援	24.1%
40～49歳 (N=130)	ゴミ拾い等の美化活動	37.8%
	地域パトロール等のまちの安全に関する活動	29.1%
	除雪など、高齢者等への生活支援	25.2%
50～59歳 (N=167)	地域の高齢者の安否確認等の見守り活動	36.1%
	ゴミ拾い等の美化活動	31.9%
	除雪など、高齢者等への生活支援	29.5%
60～64歳 (N=108)	ゴミ拾い等の美化活動	36.1%
	地域の高齢者の安否確認等の見守り活動	34.3%
	地域パトロール等のまちの安全に関する活動	32.4%
65歳以上 (N=306)	地域の高齢者の安否確認等の見守り活動	36.1%
	ゴミ拾い等の美化活動	35.1%
	除雪など、高齢者等への生活支援	30.8%
無回答 (N=22)	ゴミ拾い等の美化活動	13.6%
	地域の高齢者の安否確認等の見守り活動	9.1%
	花や緑を植える緑化活動	9.1%

➡ **美化活動のほか、高齢化対応(見守り、生活支援)、都市の安全確保への意向が高い**

問5 自由意見

まちのにぎわいや活気	64	7.0%
医療・保健・福祉	53	5.8%
除排雪	47	5.1%
日常生活の便利さ	39	4.3%
道路	30	3.3%
公園・緑地・広場	29	3.2%
教育・文化施設	28	3.1%
公共交通	23	2.5%
雇用問題	19	2.1%
まちの安全性	17	1.9%
税金	16	1.7%
観光誘致	11	1.2%
町並み	9	1.0%
地域コミュニティ	7	0.8%
環境問題	5	0.5%
住環境	0	0.0%
その他	178	19.5%
全回答者数	915	100.0%

【その他の意見】

(20代) 他の自治体との連携

- ・中空知地域の自治体は面積・人口共に小さく、広域的に各自治体の地域性を活かしての都市づくりが良いのでは。自治体だけでは限度がある。

(30代) まちづくりの考え方

- ・これから何かを新しく始めるというよりも、現状での住民の生活に不安を与えるようなことがないような生活を確保することが大事かと思われます。行政側の街づくりと住民のニーズとは異なる面も多いかと思われるので、管理のしやすさを一番に挙げずに、個々の住民の生活を大切にすべきだと思います。

(40代) 人づくり

- ・会社も行政も人づくりが一番大切だと考えます。都市づくりも一部の「名士」と呼ばれる老人に頼るのではなく、若い人達の自由な感覚に任せるべき！その為には、町づくりに若い情熱を持った人を数多く育て、広く日本国内はもとより、世界での都市づくりを研修させるなどした方が良くと思います。

(50代) 住民意識・情報

- ・自分の街であることの自信を、私自身がしっかり持てたらと思います。行政の批判ではなく市民一人一人が、出来る範囲で街を心休まる場所にしていくための努力をしなくては何も始まらない。地味な活動をされている方が沢山いらっしゃり、広報はその情報を知るとともに「何かしなくちゃ」とか「何ができるか」などの動悸付けにもなります。

(60代) まちづくりの考え方・住民と行政の連携

- ・独創性が見られない。市民より不満を聞き、滝川市の欠点（住みにくさ）を知り、百年、二百年の計画を立て、毎年少しづつ改良すると良い。われわれ市民はもっと責任感を持たなければならない。全てお役所にお任せの考え方が多いように感じる。市側と住民とのコミュニケーションが悪い、双方に責任がある。

(65歳以上) まちづくりの考え方・住民と行政の連携

- ・住民ニーズの把握を積極的に行うために、単位町内会での懇談会を数多く開催する。
- ・これからは、地域人口減少は避けて通らない世相ですので、それに合った市政をお願いいたします。

- ・ 382件の意見がみられた
- ・ 問1で満足度が低い「**まちのにぎわいや活気**」、「**医療・保健・福祉**」、「**除排雪**」について意見が多い

◆市民アンケート結果の活用

問1 (1)満足度 → 経年変化を把握

→ **次回の見直し時も経年変化を把握し、計画の成果を図る**

問1 (2)住みやすさ・住み続ける意向

→ **重要な指標の1つとして次回の見直し時も同様に把握し、計画の成果を図る**

問2 (1)～(4)今後のコンパクトな都市づくりに関する意向等

→ **新たな計画の方針について市民の意向を確認できたため、コンパクトな都市づくりの方針に基づいて検討を進める**

問2 (5)今後の都市づくりのあり方についての意向

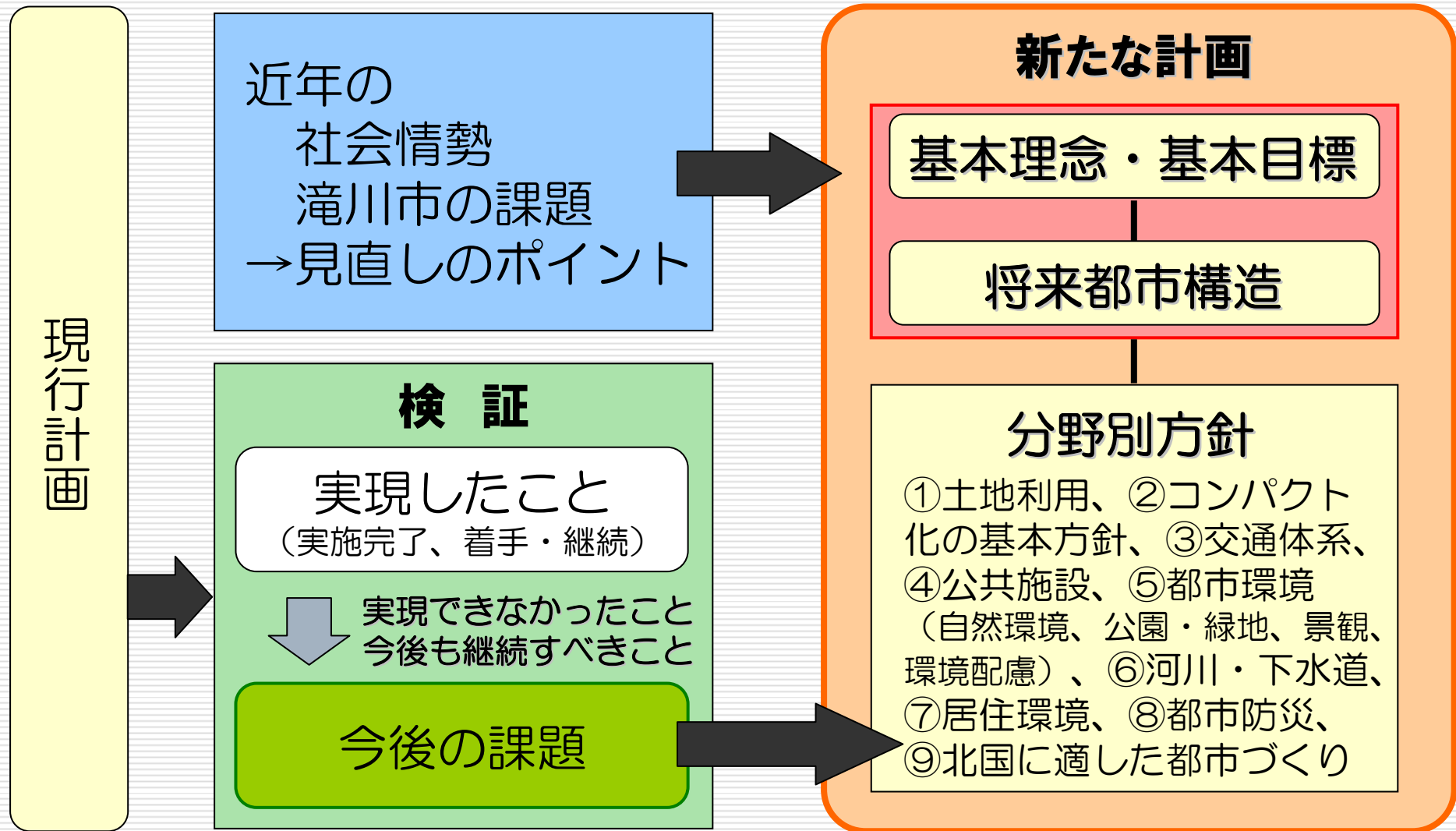
→ **市民の意向を参考に、基本理念・基本方針の検討を進める**

問3 (1)～(3)今後の都市づくり活動についての意向

→ **市民の意向を参考に、市民と協働で進める計画の推進方針の検討を進める**

4. 現行計画の検証

◆計画見直しフロー



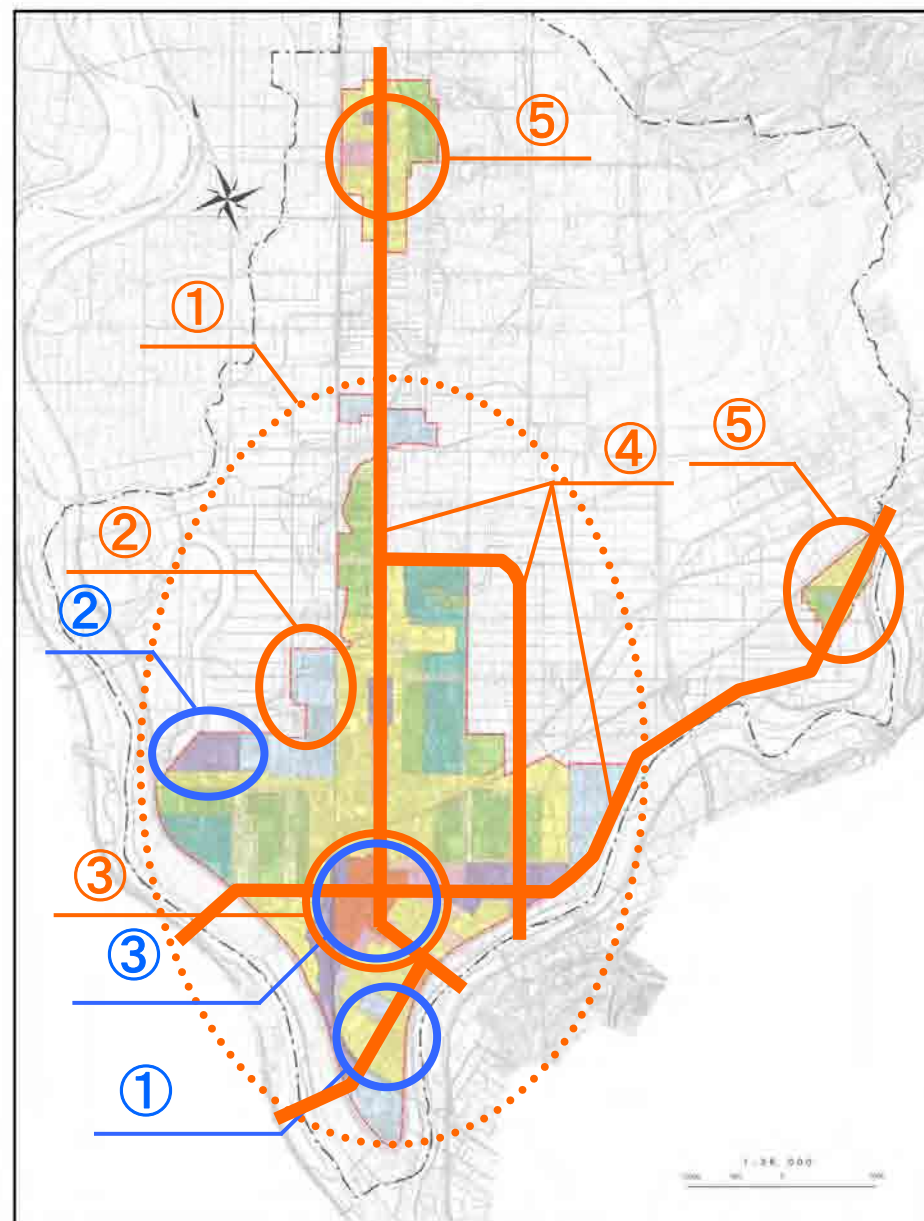
(1) 土地利用

【実現したこと】

- ① 地区計画等による良好な住環境の確保
H17年に滝新地区の地区計画の設定
- ② 研究開発施設を中心とした土地利用
H17年に泉町を特別用途地区の研究研修地区指定
- ③ 中心市街地の活性化
H20年より中心市街地活性化基本計画に基づき事業実施中

【今後の課題】

- ① 利便性の向上
幹線道路沿線を中心とした生活利便施設の誘導
- ② 土地利用の純化
住・商・工の適正配置、適正な用途地域の設定
- ③ 都市拠点機能の強化
中心部の商業・公共機能と多様な生活関連施設の連携
- ④ 交通利便性を活かした土地の有効活用
国道12号、38号、12号バイパス等、幹線道路沿線の多様な活用
- ⑤ 江部乙・東滝川の地区特性に適した土地利用
道の駅との連携や農村景観との調和に配慮した土地利用



(2) 交通体系

【実現したこと】

① 中空知圏域交通環境の整備

道道江部乙雨竜線の整備（H14より江竜橋架替整備中／H17より江部乙14丁目踏切立体交差化・道路を整備中）

② 市内交通環境の整備

中心市街地の駐車場等の維持管理／バリアフリー等に配慮した歩行空間整備、国・道への整備促進要望／冬の交通機能の確保（除排雪や堆雪スペース等）／植樹帯や植樹柵の設置等の植栽管理

③ 市内生活道路の整備

225kmのうち、90kmを改良済み

【今後の課題】

① 道内・中空知圏域の広域交通環境の整備

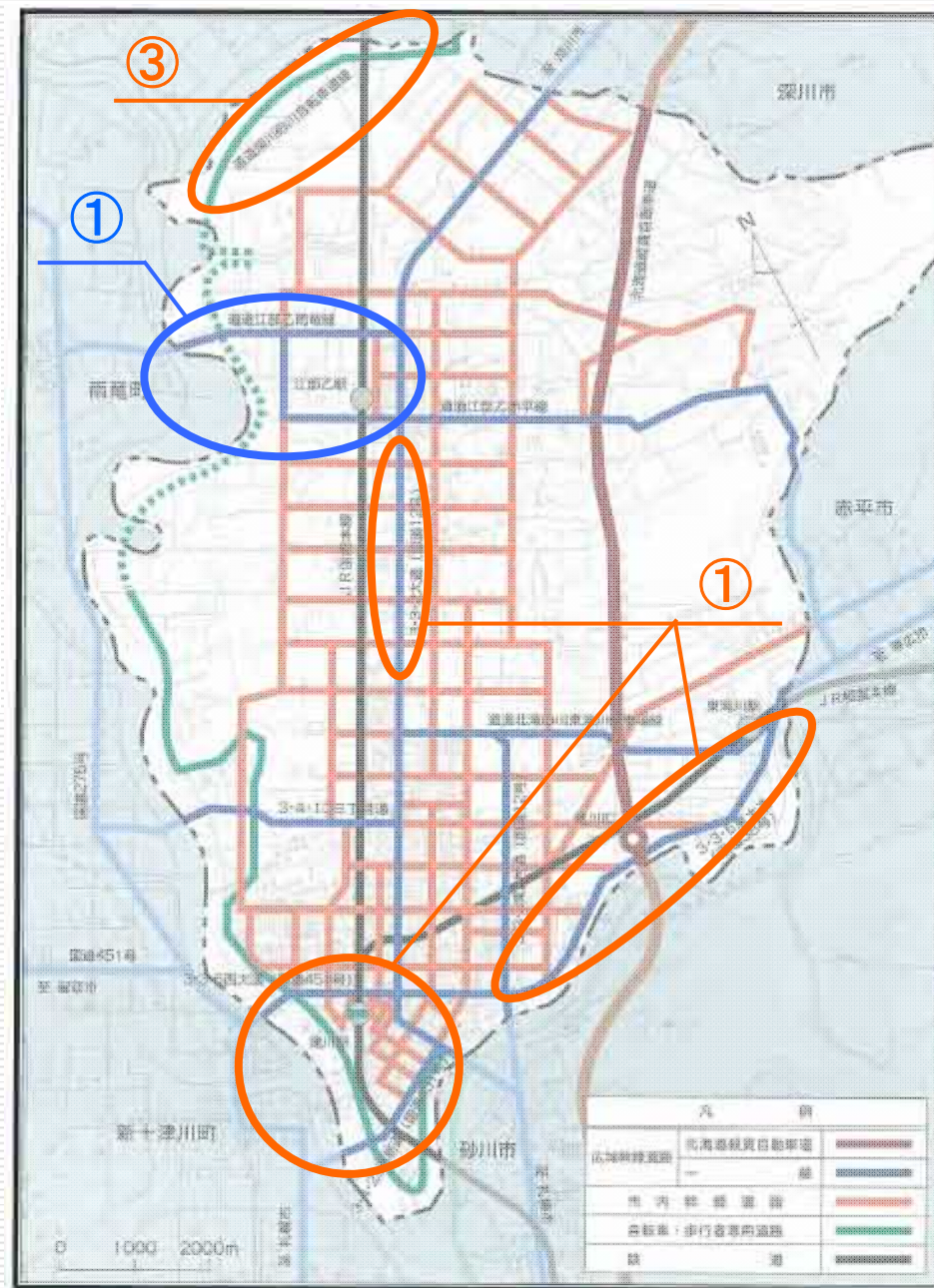
国道12号、38号における4車線化、安全性快適性の向上等／道道の安全性快適性の向上等

② 市内交通環境の質向上

交通環境の整備（駐車場、バリアフリー等）／既存道路の活用・維持管理／都市計画道路の整備・計画見直し

③ 公共交通、自転車・歩行者交通の環境整備

道道深川砂川自転車道の整備／バスの利便性向上・利用促進／歩行空間の整備（バリアフリー等）



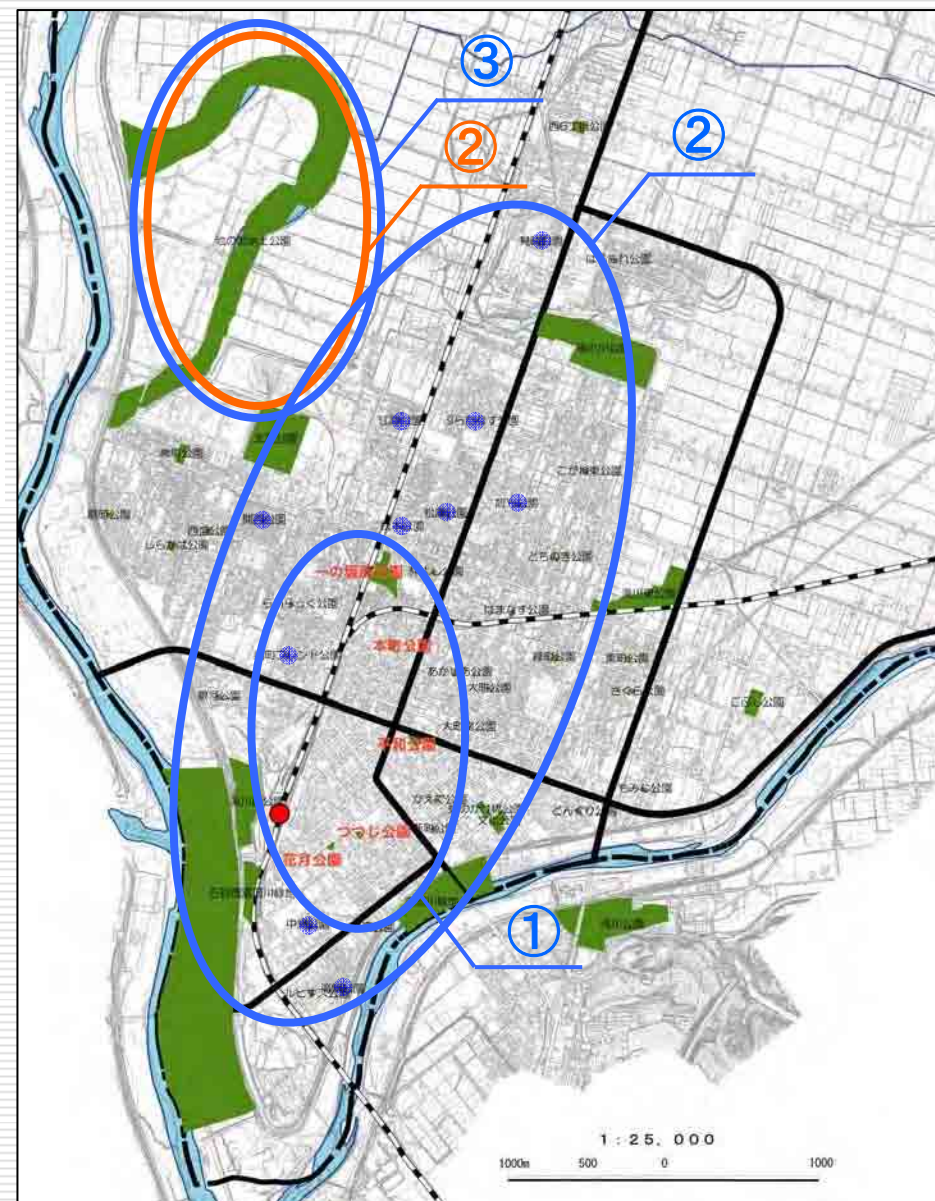
(3) 都市環境 (自然環境の保全、公園緑地)

【実現したこと】

- ① **中心市街地における公園・広場の整備**
平和公園、つつじ公園、花月公園、本町公園、一の坂西公園、など整備済み
- ② **老朽化が進んでいる公園の再整備**
街区公園の再整備 (江陵公園(H21)、関西公園(H20) など10箇所)
- ③ **河畔林や水辺環境の回復**
ラウネ川 (北海道) の整備を実施中 (H13~)

【今後の課題】

- ① **自然環境の保全**
都市の景観形成上重要な樹木や貴重な自然等の保全
- ② **自然環境の修復**
多自然型河川へ改修 (ラウネ川等)
- ③ **緑化の推進と拡大**
緑化についての市民理解・普及啓発、市内全体の緑のボリュームアップ



(3) 都市環境 (都市景観、循環型のまちづくり)

【実現したこと】

- ① **花や緑の積極的な植栽による景観形成**
緑化樹配布事業による緑化を実施中（ボランティアサポート（国道451号滝新通、江部乙市街地区、各商店街など6箇所））
- ② **資源のリサイクルとごみの減量化**
集団資源回収の実施、フリーマーケットの実施（市開催：年1回、市民活動：年10～15回）、レジ袋の利用抑制協定の締結、生ごみの資源化（広域ごみ処理施設の処理量の約55%が滝川市）など



緑化事業の実施状況



平成20年度
(財)滝川市体育協会主催
フリーマーケット

資料：(財)滝川市体育協会HP

【今後の課題】

- ① **景観形成における取り組み体制構築**
景観施策の検討と取り組み体制の構築、市民参加型の仕組みづくり
- ② **地域性のある景観の創出**
地域資源の発掘・共有化、愛着や誇りの醸成
- ③ **景観を悪化させる要因の改善**
景観に対する規制の策定など



広域ごみ処理施設
中空知衛生施設組合
リサイクルーン
(年間7,000t程度の処理)

資料：滝川市環境基本計画